

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	市立川西病院あり方検討委員会(第2回)		
事務局(担当課)	総合政策部政策推進室政策課		
開催日時	平成24年10月11日(木) 午後7時から午後9時まで		
開催場所	川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	(別紙委員名簿のとおり)	
	その他	水田副市長、姫野病院事業管理者	
	事務局	本荘総合政策部長、石田政策推進室長、飯田政策課長、片岸政策課長補佐 山田経営企画部長、芝経営企画室長、新田経営企画課長、西森理事兼地域医療連携室長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	8人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	(別紙会議次第のとおり)		
会議結果	(別紙審議経過のとおり)		

市立川西病院あり方検討委員会委員名簿

平成 24 年 10 月 11 日現在

(敬称略 / 50 音順)

	委員氏名	職業等	選出基準	備考
1	甲斐 良隆	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授	学識経験者	
2	加門 文男	川西市コミュニティ協議会連合会理事	市民・利用代表者	
3	竹本 博行	川西市医師会会長	医師会代表者	副委員長
4	土岐 祐一郎	大阪大学大学院医学系研究科外科学(消化器外科)教授・大阪大学医学部附属病院消化器外科 診療科長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	
5	難波 光義	兵庫医科大学内科学糖尿病科主任教授・兵庫医科大学病院 副院長	学識経験者 (医師派遣大学代表者)	委員長
6	西 育良	公認会計士	学識経験者	
7	松本 圭司	兵庫県阪神北県民局伊丹健康福祉事務所長	地域医療関係行政機関の職員	

市立川西病院あり方検討委員会（第2回）会議次第

日時：平成24年10月11日（木）
午後7時～

場所：川西市役所4階 庁議室

1 開会

2 議事

- (1) 市立川西病院のあり方検討・・・・・・・・・・・・・・・・【資料1・2】
 前回の振り返り

市立川西病院の必要性について

3 今後のスケジュール

4 その他

5 閉会

審 議 経 過

発言者	発言内容等
	<p style="text-align: center;"><u>市立川西病院のあり方の検討について</u></p> <p style="text-align: center;">前回の振り返り</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川西病院の現在の状況は 164 床で運用しており、医師は 27 人、整形外科は医師がおらず、休診状態に近い状況である。 ・ 建物は築後約 30 年経っているため、数年でいよいよダメになる状況ということで、このあり方検討委員会が立ち上がったということもある。 ・ 個室率は病室 20%で 6 人部屋が多く、運用面において課題が多い。 ・ 137 人/日の入院者数で内科が医師も増え実績を伸ばしているが整形外科のマイナスのインパクトが大きい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民のうち 4%が川西市立病院を利用しているという資料は、平成 22 年度のある 1 ヶ月間について、国保レセプト請求により把握した延入院患者数のため、療養病床に入院している患者の入院日数も全て含まれている。 ・ 急性期の患者は、川西市全体の救急搬送のうち 25%を川西病院、ペリタス病院、協立病院で診ている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接する他町の利用が多い。市民があまり使っていないのであれば、市民の理解が得られない。他町の応分の負担や貢献については、検討していかなければならない。 ・ 毎年 9 億円程度の補助金が出ている。市の財政負担は大きいものがあり、今後、建て替え、修繕を行うにしても多大な財政負担を伴うと思うが市としてどのように考えているのか。
副市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不採算部分については、総務省から示されている範囲内で 10 億円近い補助金を支出している。これからも不採算の部分については、補助を行っていくべきと考えているが、それ以外の赤字分について、補てんを行っていくという考えは今のところない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の議論の中では、建替えをするのか、場所はどのようにするのか、競合が多い南部にあえて行くのかという議論もあると思う。それは、標榜する診療科目とも関係してくるものだろう。自治体病院なので偏りのある診療科でもいけないと思われるし、総花的で赤字部門だけ残るとするのも困るだろう。 ・ 医師の確保については、大学医局だけに依存しすぎるのではなく、目玉になる診療科ができるとそれをインターネット等で公開し公募するといったことも必要だと思う。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の確保については、大学医局にお願いしているが、ホームページを見て応募される方もいる。当院は院内保育所もあり、女性医師に対して働きやすい職場づくりをPRしていくことが必要と考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間病院であれば、病院のことだけ考えれば良いが、市立なので市全体の医療について考えなければならない。 ・ 仮に、北部の川西病院が無くなれば北部は医療過疎地となり困ることになる。また、南部に3つの病院が集まれば、競争が激化して病院が潰れ、医療がなくなってしまうことにもなる。 ・ この委員会では市全体のことも考えながら、市民病院をいい方向に持っていくことを考えていかなければならない。 ・ このままであれば、無限責任を市民に負わせることになる。これ以上赤字を膨らませないためにも、医師にもっとフレキシブルに勤務してもらうことが必要であり、そのためには経営形態も考えるべきである。 ・ 市はある程度の責任は負うが、それ以上は独立した経営をやってもらうという経営形態にすることをまず考えていくべき。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率が異常に高いが、職員数がどうなっているのか教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率は、H23年度決算で74.7%と高くなっている。また、当院の常勤職員数は、H22年度で239人だったが、H23年度は219人と20名を減らしている。しかし、人件費率が落ちるまでには至っていない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの公立病院も人件費は高めになっているが、70%を超えているのを見るのは初めてである。収入を伸ばすことによって人件費率を下げるほかない。
<p>川西病院の必要性について</p>	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川西病院が何を市民に提供しなければならないかコンセンサスを得る必要がある。でないと何をやってもマイナスになる。 ・ 川西病院が無くせないのであれば、許容される赤字幅はどれくらいなのかについても市民のコンセンサスを得る必要がある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川西病院の救急搬送数はどのくらいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内には救急搬送病院が3病院ある。北部は川西病院が、中部はペリタス病院が、南部は協立病院が担っており、川西病院では約3分の1を受けている。年間約1600件である。 ・ また、救急搬送される隣接3町の住民の半分くらいは川西病院で受けている。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は川西病院に行っていたが、最近、整形外科が無くなったため行こうと思わない。 ・ 川西病院の充実を考える前に、市民のためにあるのか、3 町のためにあるのか、阪神北のためにあるのかを考える必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮に、川西病院が無くなると、現在利用されている 4 %の患者は別の病院に行かなければならない。当然、市民のための病院でなければならない。 ・ 小児救急の輪番制を川西病院が担っており、また、がん診療拠点病院に準ずる病院としてペリタス病院や協立病院にない機能を持っている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何か目玉の科目を作ることにより経営をよくすることは可能か。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず、患者が相談できる病院であってほしい。また、医療や介護は本来行政が担うものだと思う。 ・ 整形外科の医師の確保はできるところからやってほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営だけを考えるのであれば、民間委託をして赤字を減らしてゆけばよいが、市民が誇れる病院づくりというのは大事な視点だと思う。 ・ 医師会から見て川西病院はどう写っているのか。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 率直に言うと、南部の医師は川西病院を評価していない。 ・ 紹介する患者自体が、伊丹病院や池田病院を希望されるのが現実。 ・ 川西の福祉、医療を考える医師会の立場からは、違う視点で川西病院を評価している。 ・ 小児科の医師の立場からでは、川西病院がなくなるとペリタス病院の 4 床しかなくなり、小児医療は崩壊する。個人的には病院は存続ありきで議論すべきと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化や整形外科、救急、小児医療はキーワードとなると思う。 ・ 産科の状況についてはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分娩件数は、H21 年度 246 件、H22 年度 293 件、H23 年度 245 件。 ・ 常勤医師は 3 名。病床数は 35 床ある。市内で分娩可能な病院は当院とペリタス病院。ただし、両院とも分娩数は伸びていない。 ・ ペリタス病院の分娩件数は 400 件程度あるが、減ってきている。また、ハイリスク分娩は受け入れていない。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川西病院の 3 名で年間 293 件は少ないと思う。年間 200 ~ 300 件というクリニックと同じ件数である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時期、産婦人科での分娩を取りやめたことにより、その後も分娩数が伸びてい

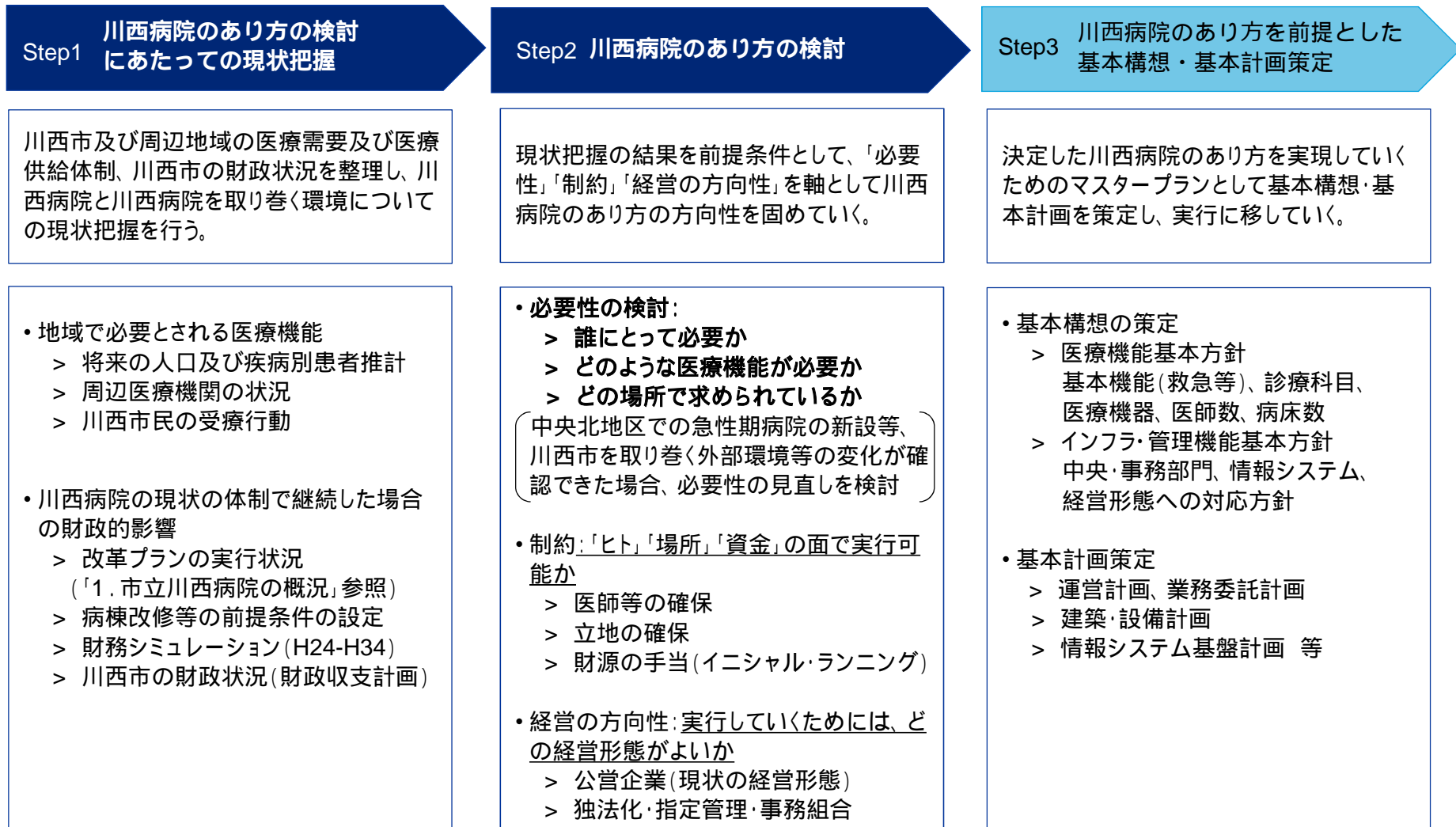
	ない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 委員の皆さんの意見を総合すると、川西病院は地域に必須の病院であるということだと思う。市民のコンセンサスを得ていかなければならないことはあるが、継続ということは間違いないと思う。 それでは、必要性があるとするならば誰のためにこれからやるのか、市民は何を求めているのかについて、場所と診療科についてもどうするのかについて議論をいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 病院は一旦建設すると40年、50年の話になる。南北の人口問題もある。この北部地域を行政としてどうとらえているのか。
副市長	<ul style="list-style-type: none"> この地域には新名神高速道路ができ、インターチェンジもできるなど大きく変わる。過去、中北部地域を中心に大型団地ができ、当時の人口3~4万人から現在の16万人に伸びてきた。しかし、今後は人口も減少し10年後には15万5千人に減少するという推計が出ている。 この北部地域に限って何か大きな計画があるかということ、今のところ何か絵が描けるということではない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 病院経営に対して、交通の便はどれ位影響するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の有料化の際に来院者の交通手段調査をした。病院の最寄りの駅からは徒歩で15分くらいかかるので、車利用は50%を越え、バス利用は7%であった。 市でも循環バスを試験運行した。病院経由で買い物もできるルートで走らせたが、5ヶ月で利用は5~6人のため終了した。病院自体に魅力があれば病院に行くといった意見が市民からあった。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> アクセスの充実と魅力ある病院作りの両方が必要なのだろう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 最寄りの山下駅からは遠く、道も狭い。試験運行でバスを運行したことはあまり知られていない。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> どこかでガラガラポンしないといけない。累積赤字も65億円となっているため、これ以上は増やせない。 どんな形の病院にするか。必要と思われるのが猪名川町・能勢町・豊能町だと思うが、豊能はヘリで大阪府内の病院へ送るケースが多い。病院の存続の議論については必要とされる地域で必要とされる人々に提供しないといけない。一部事務組合立も考えられるのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> 経営形態はどのようにすべきか。他の自治体病院の状況はどうか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ うまくいっているところと、いないところいろいろある。 ・ 送迎バスも不便なところであれば、お金が少々かかっても市が運行するのは当然のことだと思う。来ていただくために必要な条件である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のためのショッピングや医療、学校などを合わせたルートのバスを走らせ、利用者を連れてくるのが先決ということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住居・医療・商業施設の3つをトータルでとらえた考え方が重要である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新名神高速道路のインターチェンジや病院の周辺には、商業施設等を誘致できるスペースはあるか。現在の病院だけでなく、移転を考慮してもよい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の病院周辺では、田んぼなど調整区域が多いのではないのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在も病院の周辺には、商業施設がある。 ・ 医師から見てどんな病院が魅力的なのか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医師など育ててくれる医師がいることが必要である。外科ではどんな病院が望ましいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外科は特殊で、チームで動く傾向がある。 ・ 川西病院は医師の勤務場所としては、車で移動することが多いため来にくい立地ではない。むしろ診療科が少ないのが弱点。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師確保についてはどうか。医師が行ってみたいと思うような取り組みは。
管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導施設は必要。現在、糖尿病の高名な専門医に来てもらっている。今後は、消化器・循環器の医師が必要になってくる。 ・ 立地も含め医師に来てもらえるような環境を整える必要がある。ただし、一朝一夕にはいかない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会としてもぜひ、市民の声を聴いてみたいと考えている。市としての考えは。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民3000人規模のアンケート調査は可能である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何かアンケートで聞いてみたい項目等がありますか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有名な糖尿の医師が来たことは知らなかった。そういった事をアピールすべきではないか。こういう事をアンケート時にお知らせすべきではないか。

委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページでもいいので病院内の情報や検診の情報等を逐次流して欲しい。市民は専門医が来られたことも知らない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健診も何かアピールもすべきだ。ぜひ売りをアピールして欲しい。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猪名川町から川西市南部までの全般を視野に入れながら、北部の市立川西病院をどう存続させるかについての明確な方針を作るべき。 ・ 総花的な病院を作ってもしょうがない。既存の急性期病院の診療内容等を勘案すべき。小児科はベリタス病院で4床しかないため、川西病院は最後の砦といえる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの議論から言うと、小児、産科、循環器、整形、高齢者医療、救急は残すべき。それにプラス目玉が欲しい。目玉でなくともそれぞれの診療科を総合化していき、指導的立場の医師を保有していくのが生き残り戦略ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療支援病院を目指してはどうか。整形外科があればいいが、難しいのであれば小児科を伸ばしていくなど、今すぐできることと先にできることを分けて考えるべき。 ・ 人件費の問題は経営形態と関係してくる。休止病床があるのであれば、これを療養病床として活用すべきである。 ・ 高齢化が進むことは確実なので、今後は医療と介護を絡めて考えていくべき。特に北部はこの点を加味すべき。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の老朽化において、6人部屋は入院が入りにくいので、今後修繕を行うのであればレイアウト変更を考えるべきではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在個室は全体の20%くらいしかないが、個室のニーズは高い。現在、6床を4床で使っているが、そうすると1病棟は定員50人に対して30人程度しか入らない。この運用であれば、看護師の配置も効率が悪いが多くなる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつアンケートをする予定か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう少し具体的に医師の確保や経営形態等についてご議論をいただき、並行して年内にアンケート調査を実施し、年明けには、このアンケート結果を踏まえた総合的なご意見をいただきたいと考えている。
	<p>今後のスケジュールについて</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ あり方の議論として、次回は必要性や医師の確保、役割について議論していただくことにしている。 ・ 次回開催は、10月31日(水)19:00からです。 以上

川西病院のあり方検討に向けてのステップ

川西病院のあり方検討では、まず、川西病院を取り巻く環境についての現状を把握し、「必要性」「制約」「経営の方向性」を軸とした検討を行ったうえで、基本構想・基本計画の策定へと進めていく。



現状把握：まとめ

高齢化の進展に伴い医療需要はますます高まるものと予想されるが、現状における川西病院の財務状況や施設・設備の老朽化等を考慮すると、現状の体制で運営を継続することは困難である。今後の市民の医療需要を踏まえた医療機能・立地・規模での「必要性」や、財源の手当、医師の確保における「制約」、効果的に運用していくための「経営形態」を軸としたあり方の検討が必要である。

医療需要

- 川西市は高齢化の進展とともに、循環器系を中心に医療需要が高まってくることが予想されるが、現状においては川西市外(阪神北医療圏外)及び川西市南部周辺の医療機関でカバーしている。
 - 川西市の高齢化率は全国平均より高く、高齢化の進展とともに年率 0.3%で人口は減少が推計される。
 - 川西市は北部・中部・南部にそれぞれ急性期病院が存在するが、川西市民の一部は市立池田病院など川西市外(阪神北医療圏外)の医療機関において受診している状況となっている。
 - 潜在入院患者数は、入院受療率の高い75歳以上の潜在入院患者数が増加するため、疾病別潜在入院患者数では、とくに循環器が増加し、循環器の中でも脳疾患が増加すると推定されるが、現状では川西市外及び南部周辺の医療機関を中心にカバーしていると考えられる。

財務状況

- 川西病院においては、施設・設備の老朽化への対応及び財務的な影響を考慮した場合、現状における体制での運営継続は困難と考えられる。
 - 川西病院はH24年で築29年が経過しており、今後10年以内に大規模な病棟改修が必要となる。
 - 現状の体制で運営を継続した場合、上記病棟改修を考慮した財務上の影響として、H24年度からH33年度の10年間で他会計負担金を除き98.7億円の資金不足が試算される。
 - 川西市の中期財政収支計画では、病院事業会計へはH24年度からH33年度にかけて92.6億円の補助金による繰入れを計画している。

論点	現状	委員から出された意見	検討すべき視点
1. 誰にとって必要か			
市民(北部・中部・南部)	<ul style="list-style-type: none"> 川西市国民健康保険加入者の入院患者のうち川西病院利用者は4%程度(H22年度国保レセプト) 市立池田病院の入院患者の2割以上が川西市民(H22年度) 	<ul style="list-style-type: none"> 税の負担を考えると川西病院は本当に必要なのか。状況に応じて病床数を考えるべき 川西病院には整形外科がない上、外傷患者もベリタス病院に行く流れができてきている 	<ul style="list-style-type: none"> 立地面の問題か、提供する医療機能等の問題かの検討
隣接3町(能勢町・豊能町・猪名川町)の住民	<ul style="list-style-type: none"> 川西市北部住民(52%)とあわせて3町(32%)の住民が川西病院を利用している。(H21改革プラン H19年度退院患者データ) 3町との財政負担に係る具体的な議論はされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市北部で病院を継続するのであれば、3町との組合立をしていくべき 市民の負担を考えると、3町にも相応のランニングコストをもらうように働きかけるか、市民には個室料を引き下げるなどのインセンティブが必要 医師会の立場からは、猪名川町の医療を抜きにした議論はできない 	<ul style="list-style-type: none"> 3町との具体的な資金負担等の検討(課題:経営健全化) 一部事務組合への移行の可能性の検討(課題:現状の累積債務等の取り扱い)
クリニック等の開業医	<ul style="list-style-type: none"> 北部のクリニックの紹介が中心 新しい医療機器(MRI、CT)が導入されたため、紹介患者は増えたが、検査紹介のみとなっているものが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 開業医の紹介は、川西病院よりも市立池田病院へが多いのでは 	<ul style="list-style-type: none"> 中部・南部のクリニックへのPR
大学医局	<ul style="list-style-type: none"> 整形外科が事実上撤退 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の医局に頼るのではなく、複数の大学医局を持っていないとリスクは高い 医師集めは、指導力のある医師(それを支える医師を含む)をどう集めるかが鍵となる ポイントを絞って、特定の科目や疾病、救急に特化すれば医師を集めるのも可能ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 医師確保ルートの検討 公立病院における人事管理システムの見直し 医師集めのための「特化した医療機能」の検討
2. どういった医療機能が必要か			
救急医療	<ul style="list-style-type: none"> 二次救急医療機関に指定 整形外科の常勤医師はいない 	<ul style="list-style-type: none"> 立地の悪い病院は、外来に制限があるので救急を受けないと経営は成り立たない。 200床程度の病院では、救急を中心として活性化していくべき 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤の整形外科チームの確保 川西市北部・中部・南部での救急医療のニーズ把握
小児・周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> 小児科医 常勤2名、産婦人科 嘱託医師3名 1日あたり入院患者数は小児科8人、産婦人科9.7人(H23年度) 分娩件数は年間240件程度で35床ある病棟が満床になることはない 		<ul style="list-style-type: none"> 他病院・クリニックとの役割分担・連携の検討 割当病床・病棟配置の見直し
緩和ケア医療	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア21床をH24年12月にオープン予定 		<ul style="list-style-type: none"> 他病院やクリニックとの連携の検討
その他	<ul style="list-style-type: none"> 川西市民の高齢化に伴い、今後10年間で潜在患者数の増加が予想される。 許可病床数280床ベースでの病床稼働率は48% 	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年は部分的な改修を行い、それ以降は思い切った方向性のビジョンを考える必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな医療機能(循環器等)への対応の検討 病院規模の縮小の検討
3. どの場所で求められるか			
現在の場所	<ul style="list-style-type: none"> 市北部に立地し、築29年が経過している アクセスは車利用が8割と多い(H21改革プラン) 	<ul style="list-style-type: none"> 公共のミニバス等の運用はどうか バスの便数が少ない 医師会の立場からは、猪名川町の医療を抜きにした議論はできない(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の場所での修繕・建替の検討
別の場所	<ul style="list-style-type: none"> 中央北地区に医療機関の誘致を計画 	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトシティの構想のもと、病院や買い物施設などは近接しているのがよい 病院をどこにするかということは、まちづくりをどうするかということにつながる 	<ul style="list-style-type: none"> 候補地の検討 財政的裏づけの検討
4. 市民の声をどのように聞いているか	<ul style="list-style-type: none"> あり方検討委員会での議論(市民・利用者の立場からの意見) 	<ul style="list-style-type: none"> どこかの時点でパブリックコメント等により市民の意見を聞く必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケートの検討(3町住民を含める場合の3町との調整を含む)

